

戸田康之さん『JAL』（9月18日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。
今日は飛行機の安全ビデオについてのお話です。

飛行機に乗る時、離陸前に映像を見ますよね。機内での注意事項、タバコは吸ってはいけませんとか、手荷物は上の棚に入れてくださいとか、シートベルトのかけ方、飛行機が危険な状態になって黄色い酸素マスクが落ちてきた時の使い方、救命胴衣の着け方、そうした内容を説明する映像を安全ビデオと言います。この安全ビデオ、私がJAL…あの赤い鶴のマークの飛行機ですね、あのJALの安全ビデオにろう通訳として出演し、今公開されています。

どうしてそのようなことになったのかというと、以前、別の航空会社のANAが先に安全ビデオに手話通訳をつけていました。ろう通訳の男性が担当しています。JALはというと、まだ通訳がついていませんでした。JALの関連会社に勤務しているろうの女性が安全ビデオに手話通訳を付けたいということで話を進め、今回つくことになったんです。ろう通訳がいいと言うことで、私、戸田のところに直接依頼がありました。なぜ私に来たかということ、その女性社員は、私が大学の時に家庭教師をしていた生徒だったんです。その生徒が今、社会人になりJALの関連会社で働いています。その女性社員が、ろう通訳をつけた安全ビデオを作りたいと企画し、それが通ったということで、私にろう通訳の依頼をしてくれました。ただ、個人に直接依頼するのではなく正式な依頼として手話教師センターを通した方がいいということで、教師センターを通す形で私が通訳として派遣されることになったんです。

安全ビデオをどのように制作するか、JAL側と打合せをしました。先行のANAは映像の中に手話通訳のワイプが入っているので、説明と手話通訳が同時に進むからいいのかなとも思いましたが、安全ビデオというのは映像の時間がきっちり決まっているんだそうです。手話通訳がゆっくり丁寧に説明してビデオの時間が延びてしまうことは絶対にダメで、厳密に時間が決まっています。ANAの安全ビデオもそうなっているとのこと。分かりやすく丁寧に通訳をやろうと思うと時間がかかってしまいますが、それはできません。また、ワイプの手話通訳は通訳者が小さくて見にくいので、手話を大きくきっちり見せたいとのことでした。結局、本編映像と手話通訳映像を交互に切り替えるというやり方になりました。時間は長くなってもいいので、その代わりに離陸前の映像として流すのではなく、座席の前にある映画などを見られる個人モニターから手話通訳付きの安全ビデオを選択すると見られるという方法にしてはどうかという提案がありました。また、ホームページに映像を掲載して、飛行機に乗る前に見てもらったうえで搭乗したり、YouTubeにも掲載されているので、「手話通訳 JAL 安全ビデオ」と検索すると見ることができます。飛行機に乗る前にそのYouTubeを見てから乗ってもらうのが良いのではないかという話になり、通訳部分の撮影をしました。

本番の撮影の時には、背景の色やそれ以外の細かい部分についても綿密に打合せをしました。

私が今まで通訳をやった時には、見やすいようにいつも背景は青や緑や黒など暗い色が多いのですが、JALと言えば赤だから背景を赤にしたいと言われ、赤い背景で通訳をしたことがなかったので、手話が見やすいのかどうか心配でした。でもやってみると意外と見やすかったです。ネクタイも当然赤で、スーツを着ました。最初のお辞儀をする時には、手の組み方もJALの社員から決まりがあると言われ、右手が隠れるように手を組まなければならないと教えてもらい、他にもJALの決まりに従って撮影をしました。無事に完成して嬉しいです。

ぜひ皆さん、JALに乗る時には、飛行機に乗る前にホームページやYouTubeで安全ビデオを観たり、飛行機に乗った時は個人モニターで手話通訳付きの安全ビデオを探して映像を見てみてください。